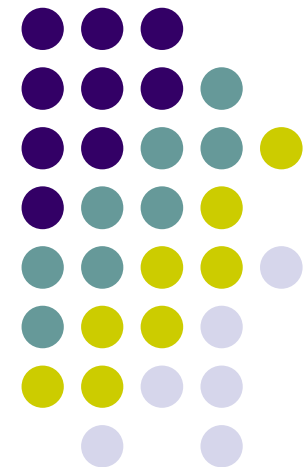


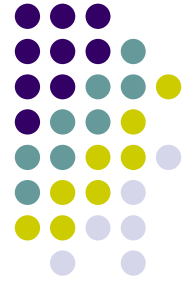
# 外来で遭遇する 重要疾病の経験数の調査

見逃してはいけない子どもの病気  
あなたはいくつ見つけていますか

近畿外来小児科学研究グループ (KAPSG)

藤岡 雅司、足立 公一、岡藤 輝夫、神沢 光江、  
絹巻 宏、熊谷 直樹、阪口 忠彦、阪口 敏子、  
清水 健、高橋 良明、武田 義廣、武知 哲久、  
西垣 正憲、西村 龍夫、橋本剛太郎、橋本 裕美、  
日野 利治、福田 優子、藤関 義樹、藤田 位





# 1. 目的

- 開業医が外来で診る重要な小児疾患の経験数を調査し、日常診療で遭遇する頻度を得る。
- 参加者同士の情報交換、診療の質の向上を図る。



## 2. 方 法

- 対象：20歳未満の外来受診患者
- 期間：平成14年1月～平成15年12月(2年間)
- 対象疾患：重要ではあるが、比較的経験することの少ない疾患
  - 参加者自身が診断した(見つけた)症例を報告。
  - 「〇〇の疑い」で病院に紹介し、後に確定された症例は報告対象に含む。
  - 知らないうちに他の施設で診断された症例については、報告対象としない。



### 3. 対象疾患(1)

1. 腸重積症；レントゲン検査、または、開腹手術により確認された症例
2. 急性虫垂炎；虫垂切除手術を受けた症例
3. 尿路感染症；顕微鏡検査による白血球尿、または、起炎菌が確定されたか、尿路系の異常が見つかった症例
4. 細菌性髄膜炎；ウイルス性以外の髄膜炎症例（化膿性、結核性、真菌性など）
5. 病原性大腸菌感染症；VERO毒素産生が確認されたもの



### 3. 対象疾患(2)

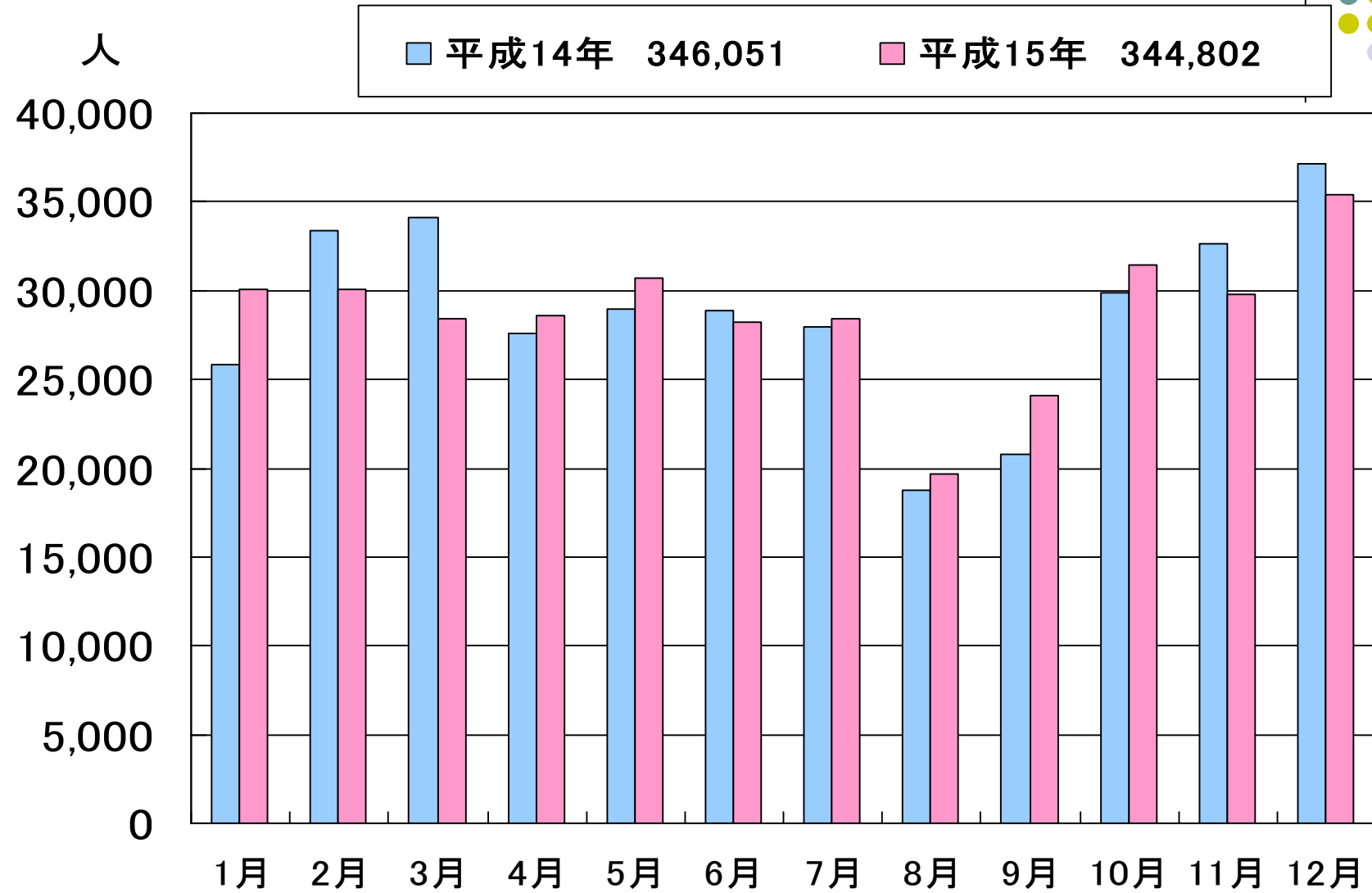
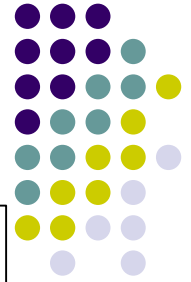
6. 川崎病;非典型例も含む
7. ムンプス難聴;ムンプス罹患中あるいは直後に明らかになった難聴症例
8. ケトン性低血糖症;血糖値50mg/dl以下、尿ケトン体強陽性
9. 発作性頻拍症、心筋炎;心拍数毎分200以上、または発熱時徐脈など
10. 悪性腫瘍;白血病、脳腫瘍、固形腫瘍等



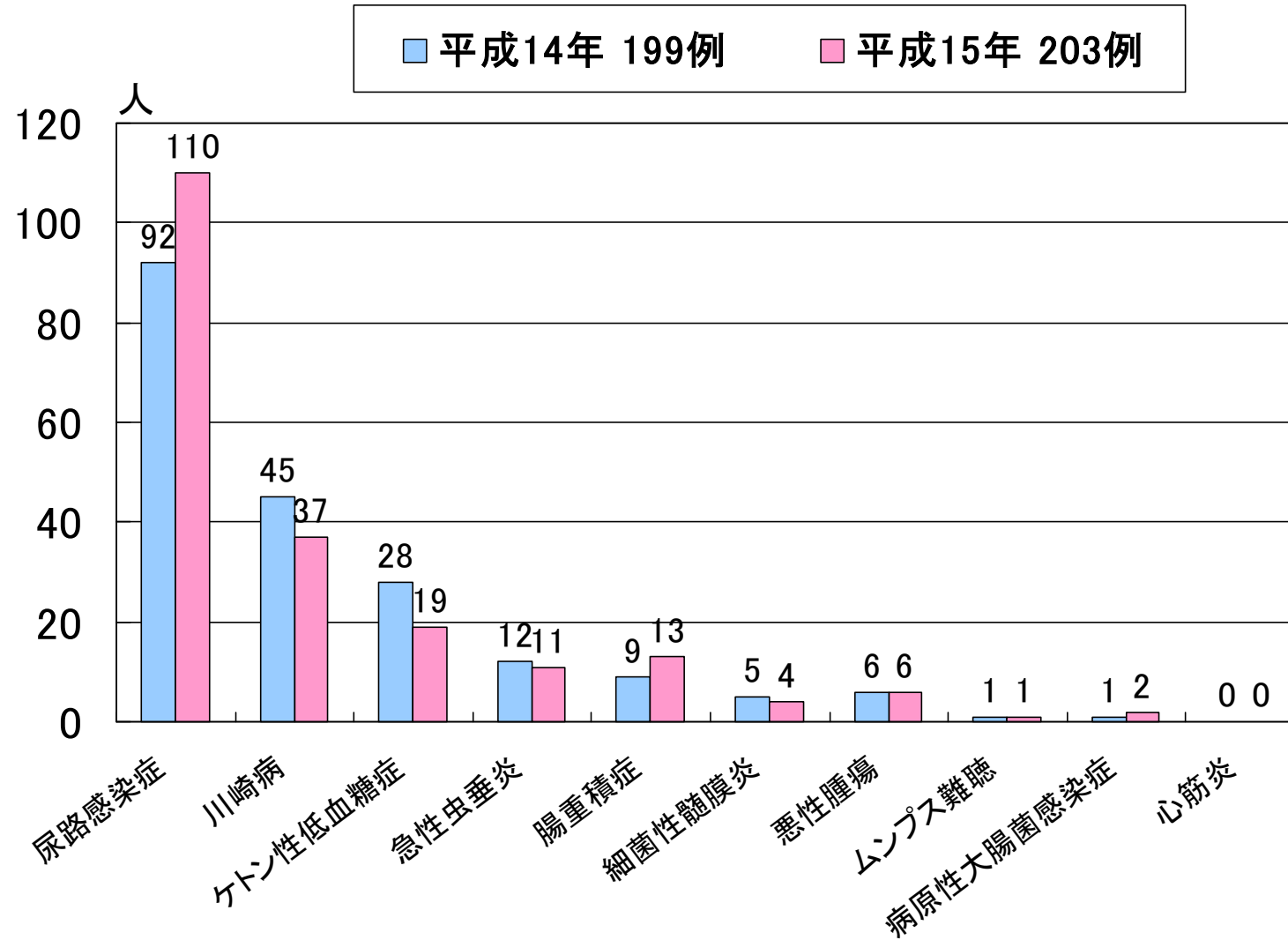
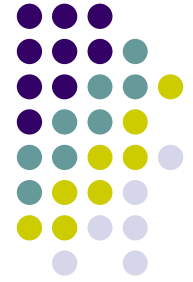
## 4. 結 果

1. 参加医療機関 :	平成14年	19施設
	平成15年	18施設
2. 延総受診者数 :	平成14年	346,051
	平成15年	344,802
3. 報告症例数 :	平成14年	199
	平成15年	203

# 月別延総受診者数



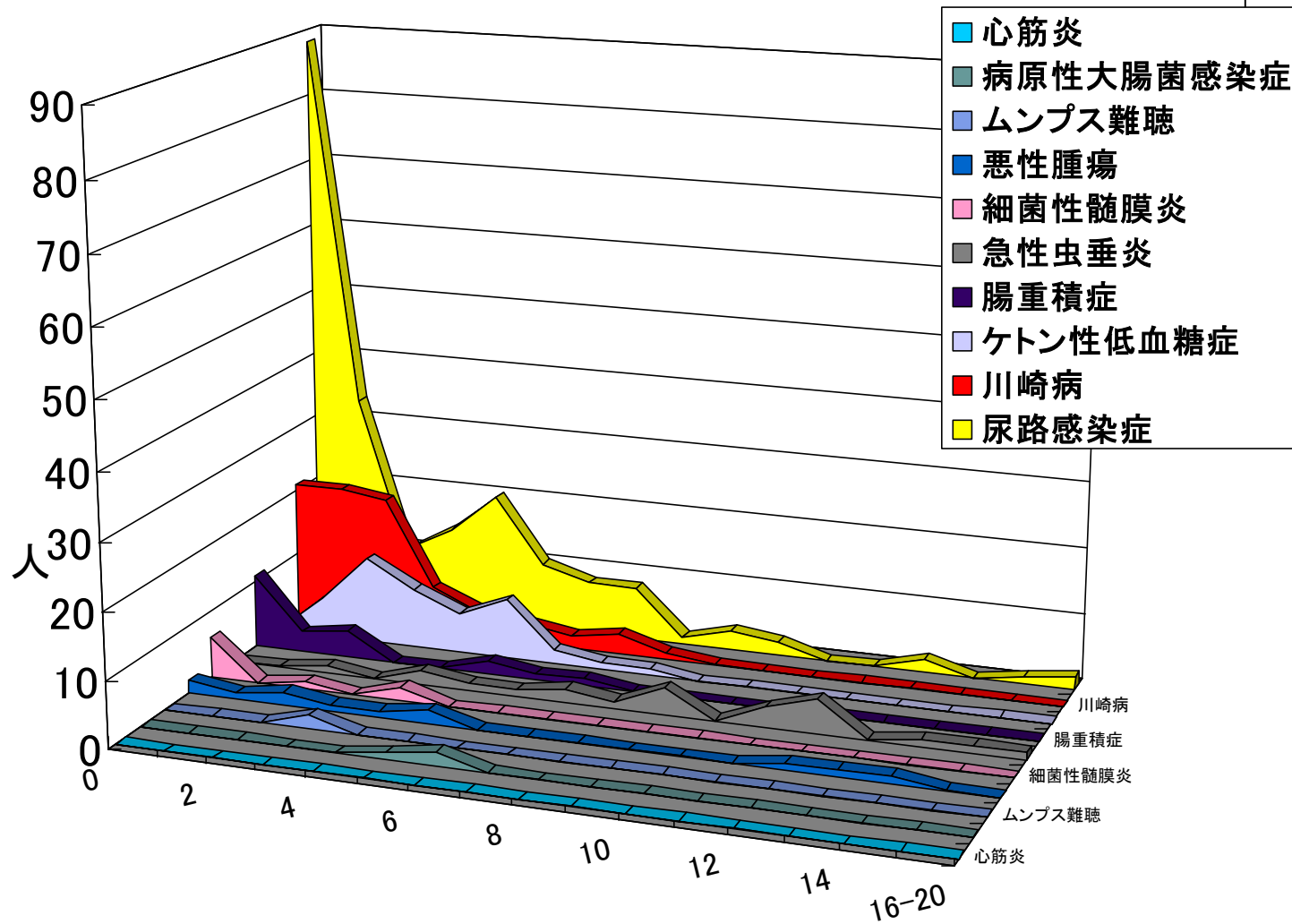
# 疾患別報告症例数





# 疾患別年齢分布

総症例数： 402例



# 症例を一例診断するのに 何人の患者を診察しているか



	H14. 1月- H15. 12月	H14. 1月- H14. 6月	H14. 7月- H14. 12月	H15. 1月- H15. 6月	H15. 7月- H15. 12月
①総受 診者数	690, 853	178, 835	167, 216	176, 074	168, 728
②報告 症例数	402	107	92	101	102
①÷②	1, 719	1, 671	1, 818	1, 743	1, 654

# 症例を一例診断するのに 何人の患者を診察しているか



95%信頼区間

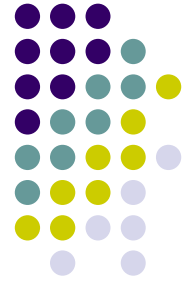
心筋炎	—	—
ムンプス難聴	345, 427	—
病原性大腸菌感染症	230, 284	—
細菌性髄膜炎	76, 761	46, 428～221, 452
悪性腫瘍	57, 571	36, 768～132, 591
腸重積症	31, 402	22, 148～ 53, 944
急性虫垂炎	30, 037	21, 323～ 50, 797
ケトン性低血糖症	14, 699	11, 431～ 20, 584
川崎病	8, 425	6, 926～ 10, 752
尿路感染症	3, 420	3, 006～ 3, 967
総 計	1, 719	

# 問題点



## 診断の不確かさ

- 尿路感染症：医療機関により診断法が異なる
- ケトン性低血糖症：感染性胃腸炎による低血糖症例も含まれている可能性がある
- ムンプス難聴：見落とされている可能性がある



## まとめ

1. 外来小児科学の基礎的データを得る目的で、開業医が外来で診る重要な小児疾患の経験数を調査した。
2. 10疾病群については、延1,700人余りの診察で症例1例に遭遇する傾向がみられた。
3. 診療に「リサーチマインド」を持つことにより、自己の診療を見直す良い機会となった。
4. 更に質の高い調査を行なうためには、診断の質の向上が不可欠であると考えられる。